

2009.10.21
NO. 6

図書館九条の会



発行・「図書館九条の会」事務局

第5回学習会

治安維持法下 図書館の受難

2009年3月7日(土)

講師 山崎 元

【元国立国会図書館員で、著書『発掘・昭和史のはざま』の山崎氏の講演内容を要約したものです】

1. 図書館施設に対して

振り返ってみますと戦前は公共施設として上野の帝國図書館もそうですが、図書館は当時唯一、不十分なが男女が文化的にも社会的にも交流できる場所でした。

上野図書館の場合、食堂や閲覧室は男女が別で、それぞれ閲覧室には見張り台があってそこで切り取りや落書きなどを監視していました。私は当時15・6歳の少年で婦人閲覧室のその台に乗って女性の閲覧者を監視するのが恥ずかしくて、まともに見てられません。一方、女性たちは監視の職員を疎ましく見ているのがわかり、一番嫌な仕事でした。男の席が300席位、女性は60席ほどでした。最初、日露戦争の時に上野図書館はできるんですが、それから昭和の初めに増築するまで女性の閲覧席はわずか20席でした。

男女が連れ立ってくることはありませんでしたが、目録室が共用でそこで知り合った男女がひそひそと話す光景がみられる程度でした。

特高警察が目をつけたのはトイレの落書きで、この図書館でも猥褻な中でも「中国侵略反対」「天皇制打倒」の落書きを見つけると、トイレは封印され館長は管理不十分と叱責されました。

2. 閲覧者に対して

私が上野図書館に入ったのは1944(昭和19)年の夏

の夜間中学3年生の時でした。出納手という職で本を書庫から届け、閲覧者と応対する出納係に渡すのが仕事でした。出納係は黒い上っ張りをして40年、50年も勤めてきたベテランで昔の出納手あがりでした。その人に聞いた話として、当時閲覧票は入館票と共通で、特高警察が一週間に一遍図書館にきて閲覧者がどういふ本を読んでいるかを調べ、必要に応じて尾行して家まで行って検挙したり、脅かしたりして、そのため追いつめられて自殺した人もいたということです。

入館票は10冊位書名を書く欄があり図書館はそれを

目次

- ① 第5回学習会・治安維持法下 図書館の受難
講師・山崎 元 氏
- ⑤ 図書館第3回全国大会・図書館九条の会交流会
三池炭鉱資料の収集保存と図書館の仕事
講師・大原 俊秀 氏
- ④ お知らせ 第95回 全国図書館大会東京大会
図書館九条の会学習会 講師 菅原 勲
- ⑨～⑫ 会員交流
- ⑬ 決算報告
- ⑭ 活動報告・第6回学習会予告

訃報

氏が3月21日にご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。
「会員交流」欄に詩と哀悼の辞を掲載いたします。